

瑞穂区
将来ビジョンが
できたって。
区政運営方針との違いは
なんだろう？

“瑞穂区将来ビジョン” って、 どんなもの？



1. 概要

名古屋市では、平成 28 年度に策定された「区のあり方基本方針」において、これまでの区役所改革の取り組みを踏まえつつ、10 年後の地域社会をみすえた区役所の果たす役割や方向性について方針を示しています。

私たちを取り巻く社会は、少子高齢化の急速な進行や核家族化、価値観の多様化、地域活動の担い手の高齢化などにより、新たな時代を迎えています。

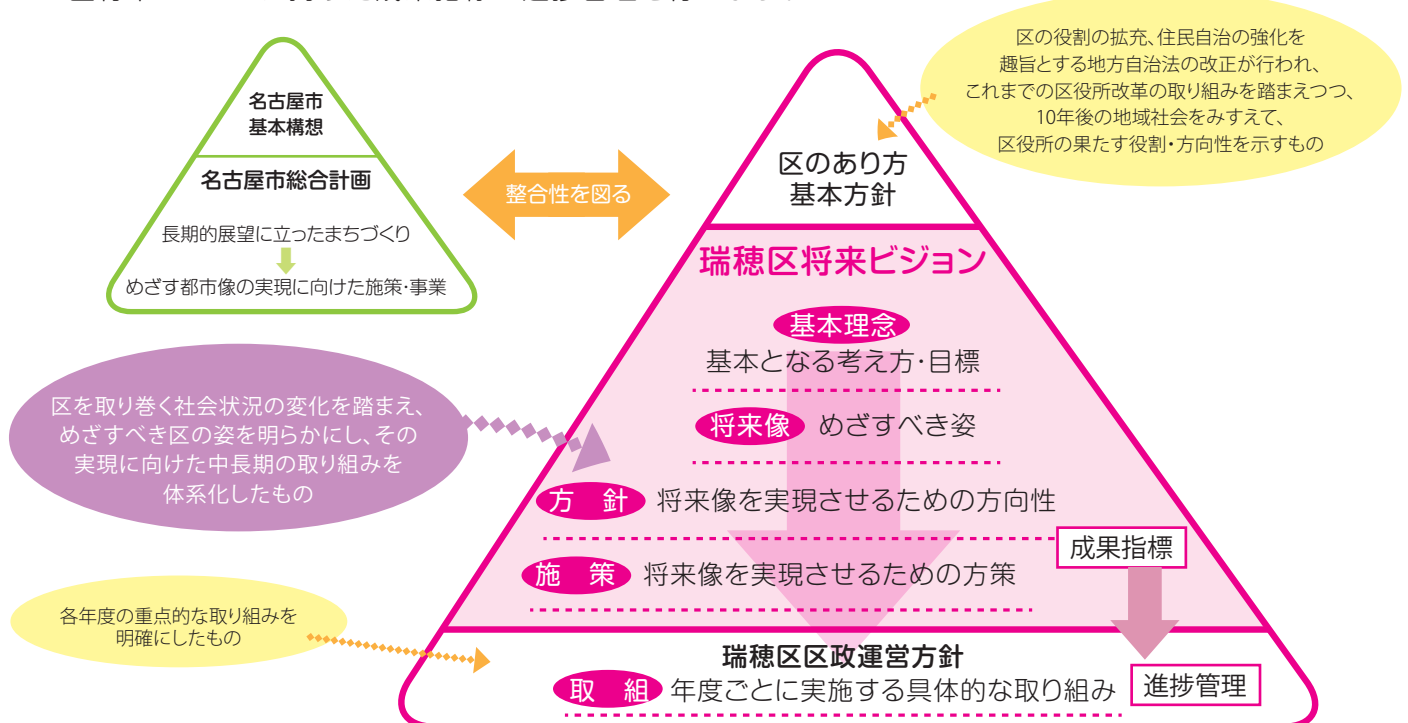
瑞穂区においても、その波は押し寄せつつあり、地域特性から生じる課題も複雑かつ多様化し、地域だけ、行政だけでは対応しきれないものが少なくありません。

瑞穂区では、こうした状況を踏まえ、現状や課題を把握し、様々な方法により聴取した意見を反映して、めざすべき姿とその実現に向けた中長期の取り組みを体系化した「瑞穂区将来ビジョン」を策定し、令和 5 年度の区制 80 周年に向けて取り組んでまいります。

2. 位置づけ

瑞穂区将来ビジョンは、「区のあり方基本方針」（平成 29 年 3 月策定）に基づき、「名古屋市総合計画 2023」（令和元年 9 月策定）との整合性を図り、その個別計画として、策定しました。

また、区政運営方針では、同ビジョンに基づいた年度ごとの具体的な取り組みを示し、瑞穂区将来ビジョンに掲げた成果指標の進捗管理を行います。



3. 計画期間

令和 2 年度から令和 5 年度までの 4 年間

“瑞穂区” って、どんなまち？

名古屋市の中央部に
位置する瑞穂区。
北区、栄区（現：中区）とともに
名古屋で11番目に
誕生した区だよ。
どうやって誕生したのか、
詳しく知りたいな！

1. 概況

区制施行 昭和19（1944）年2月11日
面積 11.22 km² （名古屋市 326.50 km²）
世帯数 51,195 世帯（名古屋市 1,122,648 世帯）
人口 107,716 人（名古屋市 2,324,877 人）
※令和2年4月1日現在



区のシンボルマーク（昭和62年10月制定）



瑞穂区のイニシャル「M」を花びらにアレンジし、
中央に区内の名所である山崎川の清流を組み合わせ、
区の限らない発展と躍進を表しています。

区の木（昭和62年10月制定）・区の花（平成元年12月制定）
サクラ Cherry tree・Cherry blossoms ばら科



マスコットキャラクター「みずほっぺ」



生まれた日：2月11日
チャームポイント：可愛いほっぺ
性格：明るく元気いっぱい
趣味：瑞穂区を散歩すること

2. 誕生

「瑞穂」の地名は、かつての瑞穂村に由来しています。明治元（1868）年、明治天皇が京都から遷都のため東京行幸の途上、東海道の八丁畷（現在の神穂町）で、収穫に励む農民の姿をご覧になられ、この時、尾張藩主徳川義宜・父慶勝親子立会いのもと、岩倉具視が「稲穂」を明治天皇に献上したことにちなんで、同9年10月7日、愛知県令（知事）安場保和（後藤新平の義父）が、内務卿大久保利通の許可を得て、弥富村（弥=ますます・富=さかえる）とともに「みずみずしい稲穂」そして日本国の美称「豊草原千五百秋瑞穂国」（とよあしはらの ちいおあきのみずほのくに）から瑞穂村と命名しました。

そして、昭和19年2月11日、昭和区弥富町、瑞穂町始め48町並びに熱田区伝馬町及び熱田東町を合わせて「瑞穂区」が誕生しました。



「明治天皇収穫観覧」
森村宜稲筆 熱田神宮所蔵

3. 特徴

瑞穂区は、名古屋市のほぼ真ん中にあり、平野から台地を経て丘陵まで、変化のある地形がひとつの特徴で、区境には新堀川と天白川、中央には山崎川が流れています。

区の西部は、沖積平野で、西の境を流れる新堀川は、明治時代の終わり頃、付近を屈曲して流れ大雨ごとに氾濫していた精進川を改修して運河にしたものです。新堀川の



誕生に伴い、水運の便を見込んで沿岸に工場が立地しはじめ、現在でも大きな工場や事業所が多く、セラミック工業や精密工業、金属加工業を中心とした日本を代表する企業や堅実な中小事業所が立地しています。

その東側には、東西の方向に商店街がいくつか並んでおり、下町の風情を今に残しています。

平野の東側から区の中央部にかけでは洪積台地で、瑞穂台地とも呼ばれています。台地部の上部は平坦で、戦災を免れたところも多く、



密集した住宅地になっています。さらに東側は、和風住宅に小さな洋館のついたハイカラな家も多くあります。また、この辺りは、明治時代の末から大正時代にかけて、第八高等学校（現名古屋大学旧教養部（平成5年廃止））や第五中学校（現瑞穂陵高等学校）、名古屋高等商業学校（現名古屋大学経済学部）が立地し、その後も多くの学校が開校し、名古屋の文教の拠点となりました。

台地の東側は、山崎川の谷間部に向かって下っており、落ち着いた雰囲気の住宅地となっています。

山崎川から東側は洪積台地で、八事丘陵と呼ばれています。この辺りは、戦前に区画整理されたところで、八事丘陵の凸凹の多い地形そのままに道路が造られています。最近では分割が進みましたが、広い宅地も多く、緑の多い住宅地がつづいています。

「日本さくら名所100選」に選ばれた山崎川の四季の道はじめ、区内には多くの桜並木があります。また、瑞穂公園は、令和8（2026）年開催の第20回アジア競技大会のメイン会場となる県内唯一の日本陸上競技連盟第1種公認陸上競技場を有し、市のスポーツ振興の拠点としての役割を担っています。

その他に、犯罪や交通事故、火災が少ない、市内有数の文教区、製造業の売上が大きいなどの特徴があります。

また、区南西部を名鉄名古屋本線が通り、中央部を南北に地下鉄桜通線が縦断し、東西に環状化された地下鉄名城線が横断しており、市内中心部や各方面へのアクセスの利便性が高いといえます。

人口の世代別の構成は、高齢者（65歳以上）の割合が名古屋市の平均と比較すると高い一方、15歳未満の割合は名古屋市が減少傾向にある中、瑞穂区は増加傾向にあります。



2 名古屋市博物館



3 杉原千畝広場
センポ・スギハラ・
メモリアル



4 瑞穂生涯学習センター



5 瑞穂図書館／
瑞穂文化小劇場



1 名古屋市立大学



第 17 回さくら写真展 瑞商連賞「桜晴れ」

7 山崎川



9 名古屋市 リハビリテーション センター



8 東山荘



6 瑞穂公園



第 12 回さくら写真展 瑞商連賞
「猫の花見」